

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3039187号

(45) 発行日 平成9年(1997)7月11日

(24) 登録日 平成9年(1997)4月23日

(51) Int.Cl.⁶
B 6 5 D 83/38

識別記号

片内整理番号

F I

B 6 5 D 83/14

技術表示箇所

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願平8-10807

(22) 出願日 平成8年(1996)10月24日

(31) 優先権主張番号 2 9 6 1 1 6 1 1 . 4

(32) 優先日 1996年7月3日

(33) 優先権主張国 ドイツ (D E)

(73) 実用新案権者 596153678

マティアス・グラットシュケ

ドイツ連邦共和国、デー - 85368、ム
ースブルク、タウベンシュトラッセ 40

(72) 考案者 マティアス・グラットシュケ

ドイツ連邦共和国、デー - 85368、ム
ースブルク、タウベンシュトラッセ 40

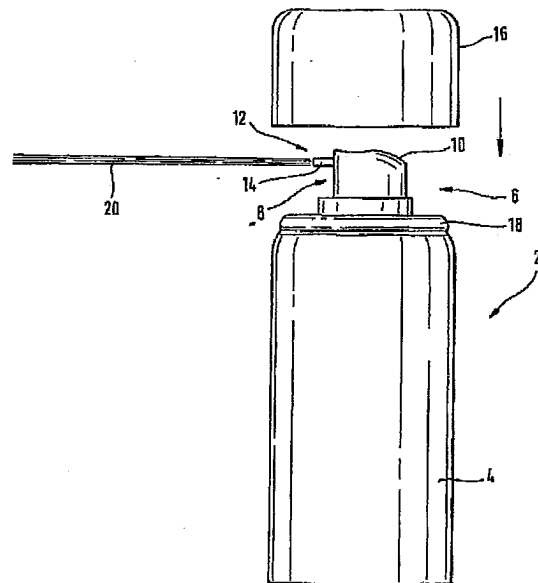
(74) 代理人 弁理士 鈴江 武彦 (外4名)

(54) 【考案の名称】 飲料用液体を収容並びに保持する容器

(57) 【要約】

【課題】スポーツ活動で取り扱われたときに重大な問題が生じず、実用的であり、使用上安全な容器。

【解決手段】スプレーバルブ(8)を備えた筒状のハウジング(4)を具備する飲料用液体を収容並びに保持する容器(2)である。この容器(2)中の炭酸ガスにより加圧された液体は、ハウジングの一端でスプレーヘッド(6)に設けられているスプレーバルブ(8)から排出され、このスプレーバルブ(8)の出口口開(12)は、液体が実質的に収束されたストリーム(20)の形態でスプレーバルブ(8)から出るように形成されている。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 スプレーバルブ（8）を備えたハウジング（4）を具備する飲料用液体を収容並びに保持する容器であり、容器（2）中の推進剤による加圧により液体はスプレーバルブ（8）から排出され、このスプレーバルブ（8）の出口口開（12）は、液体が実質的に収束されたストリーム（20）の形態でスプレーバルブ（8）から出るように形成されている容器。

【請求項2】 前記ハウジング（4）は、筒体であり、スプレーバルブ（8）は筒体の一端でスプレーヘッド（6）に設けられていることを特徴とする請求項1の容器。

【請求項3】 前記スプレーバルブ（8）の出口口開（12）は、前記筒体の長軸に対してほぼ直交する方向に向いていることを特徴とする請求項2の容器。

【請求項4】 前記出口口開（12）は、スプレーヘッド（6）から突出した筒状のチューブ端（14）内に位置していることを特徴とする請求項1ないし3のいずれか1の容器。

【請求項5】 前記スプレーヘッド（6）には着脱可能

なキャップ（16）が設けられていることを特徴とする請求項2ないし4のいずれか1の容器。

【請求項6】 前記推進剤は、推進ガス、特に、炭酸であることを特徴とする請求項1ないし5のいずれか1の容器。

【請求項7】 前記液体はアルコールを含んだ飲料であることを特徴とする請求項1ないし6のいずれか1の容器。

【請求項8】 前記液体はノンアルコール飲料、特に、リフレッシュ飲料であることを特徴とする請求項1ないし6のいずれか1の容器。

【図面の簡単な説明】

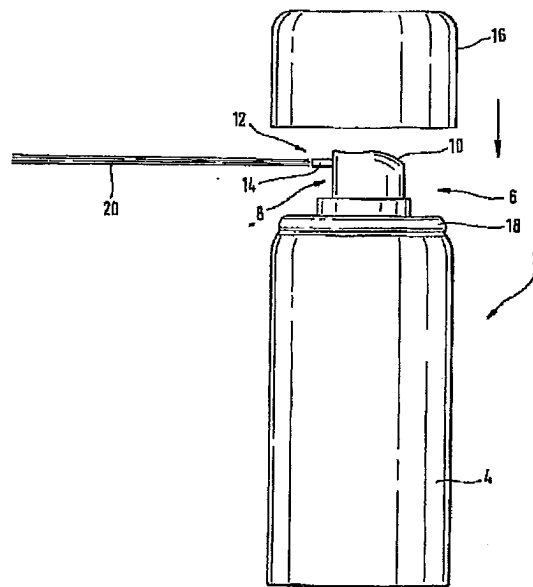
【図1】 本考案に係わる容器の概略的側面図である。

【図2】 本考案に係わる容器の使用状態での概略的側面図である。

【符号の説明】

2…容器、4…ハウジング、6…スプレーヘッド、8…スプレーバルブ、10…スプレーボタン、12…出口開口、14…チューブ端。

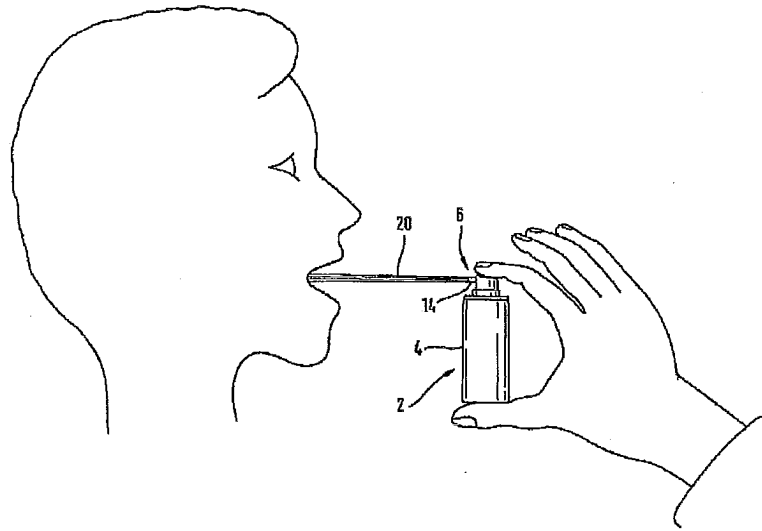
【図1】



(3)

飲料用液体を収容並びに保持する容器

【図2】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、飲料用液体を収容し、保持するための容器、特に、中にが推進の助けにより加圧され、そして必要なときにスプレーバルブを通して排出され得る容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

飲料用液体を収容し、保持するために、これら液体を耐リーク性の容器中に、例えば、ガラスやプラスチックのビンもしくは缶中に充填することが知られている。

【0003】

最近では、流動性や活動性が、近代社会の行動を高めるように特徴付けるキーワードになってきている。かくして、ランニング、サイクリング、インラインスケッチング、並びにスキーなどのレジャースポーツの分野において、より興味がもたれ、また普及している。また、ダンスや音楽のイベントのようなレジャー活動は、快くそして度々催されている。

【0004】

【考案が解決しようとする課題】

飲料の形態で液体を摂取することが、このような活動やイベントにとって、度々望まれ、また物理的緊張が高まっていく場合に必要である。このような活動やイベントでビンや飲料缶を取り扱うことは、ガラスの破片により生じる危険性のために極めて非実用的であり、また禁止されている。

【0005】

かくして、本考案の目的は、スポーツ活動で取り扱われたときに重大な問題が生じず、実用的であり、使用上安全な方法で、前述した形式の容器を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

従って、本考案に係わる容器においては、特に、スプレーバルブの出口口開は、液体が実質的に収束されたストリームの形態でスプレーバルブから出るように形成されている。

【0007】

本考案に係わる容器は、本考案の以下の説明で明らかになるであろう、本考案に基礎をなす全ての問題と任務とを解決する。

【0008】

中に液体が推進剤により加圧されて収容された圧力容器として設計されていることにより、カップ、コップもしくは他の飲料用容器を準備する必要がなく、また、ボトルもしくは缶からの実用的でなく、かくして審美的でない直接の飲みを避けることができる。液体は、容器から飲料カップまたは飲料コップ中に注がれる必要がないか、もしくは、ボトルまたは缶が唇にもたらされ、飲み込むために頭を傾ける必要がないので、スポーツ活動が、例えば、サイクリングの間に、中断されないで、飲料の摂取ができる。

【0009】

液体は、スプレーバルブからほぼ収束されたストリームの形態で吐出されるので、飲み込むためにコップまたはカップを口に付けなくて、または頭を後ろに傾けなくて、液体は、容器から直接に開けた口中に噴射もしくは噴霧され得る。液体を吐出するためにスプレーバルブを駆動する片手で、容器から開いた口に直接に液体を噴射することが可能なので、スポーツ活動はほとんど中断されることがない。

【0010】

この種容器は、耐圧性の問題から金属で形成されるので、破損の危険、かくして、破片による危険性が無い。

【0011】

型やサイズに関する容器の対応する設計の状態において、容器はさらにコンパクトなデイメンションを有し、例えば、ガラスボトルに比較して軽量であり、このために、取扱う上での利益があり、スポーツもしくはレジャー活動を妨げないか、ほとんどさまたげない。本考案に係わる容器は、例えば、大型のライターと

同様に、ズボンもしくはジャケットのポケット中に、例えば、運動着のポケット中に容易に入れておける。大型のキャリアバックやバックポケット等を用意する必要はない。

【0012】

本考案の好ましい実施の形態は従属項の主題である。

【0013】

ハウジングは、好ましくは、筒状をなし、スプレーバルブは筒体の一端でスプレーヘッド内に配設されている。本考案に係わる容器の実施の形態は、例えば、化粧用や塗料用等のスプレー缶の場合で、知られている。しかし、本考案に係わる容器のこの実施の形態は、蓄積と取扱いとが、特に片手のみで取り扱うのに極めて容易なので、実用上最も効果的な形態である。

【0014】

他の実施の形態において、スプレーバルブの出口口開が円筒体の長軸にほぼ垂直にアラインメントされていれば、噴射ストリームは、円筒状のハウジングの長軸にほぼ垂直に吐出される。これは、片手での操作をより容易にする。

【0015】

出口口開が、スプレーヘッドから突出した筒状のチューブ端内に配置されていれば、液体の吐出ストリームの収束並びに方向安定性が改良される。さらに、開いた口の方角へ出口口開を向けること、即ち、“ねらい付け”は、チューブ端は出口開口から吐出されるスプレイ状のストリームの方向を定めるので、容易にされる。

【0016】

スプレーヘッドは、スプレーバルブが非動作時に不用意に駆動されないように着脱可能なキャップを好ましくは備えている。

【0017】

推進剤は、推進ガス、特に、炭酸ガスが好ましい。炭酸ガスは生理学的観点のもとで無害であり、環境を破壊するようなことがない。さらに、炭酸ガスは、出口開口から吐出される液体が溶解した炭酸ガスを含むように液体中に容易に溶解する。この吐出液体中の炭酸ガスは、容器から出ている間に大気圧に圧力が減じ

られるので、ガス泡の形態で液体から逃げる。この結果、液体のストリームが使用者の舌並びに／もしくは下顎に当たったときに、好ましい感覚が増長され、リフレッシュ効果が高められる。

【0018】

この実施例に係わる液体は、アルコールの入った飲料、例えば、ワインの入った飲料、蒸留液、もしくはリキュール類である。

【0019】

他の実施例に関して、液体は、ノンアルコールの飲料、特に、例えば、アイソトニックをベースとしたリフレッシュドリンクで良い。

【0020】

【実施の形態】

図1に示すように、本考案に係わる容器2は、円筒状のハウジング4を具備する。このハウジング4の一端で、スプレーバルブ8がスプレーヘッド6に設けられている。このスプレーバルブ8は、指圧により駆動され得るスプレーボタン10と、このスプレーボタン10に設けられた出口口開12とを既知の方法により有する。この場合、出口口開12は、スプレーヘッド6のスプレーボタン10から突出し、円筒状のチューブ端14内に位置している。スプレーボタン10が押下されると、容器2のハウジング4内に収容された液体が出口口開12から出る。そして、スプレーボタン10を解放すると、スプレーバルブ8は閉じて、出口口開12からの液体の吐出は、再び停止される。

【0021】

スプレーヘッド6全体は、着脱可能なキャップ16によりシールされ得る。このキャップ16は、図1の矢印の方向にスプレーヘッド6に沿って摺動され得、そして、補強リム18にスナップ係合され得る。この補強リブによりスプレーヘッド6はハウジング4に取着され、この結果、スプレーヘッド10の意図しない作動は防止され得る。

【0022】

容器2内の液体は、推進体、特に推進ガスにより加圧されている。この推進ガスは、好ましくは、炭酸ガス、即ち、環境状況と同様に生理学状況のもとで無害

で、かつ液体中に用意に溶解可能な安価なガスである。

【0023】

スプレーボタン10が押下されると、推進ガスにより加圧された液体は、実質的に収束されたストリーム20の形態で出口口開12から吐出される。

【0024】

図2は、本考案に係わる容器2の使用状態を示す。図2に示すように、この容器2は、キャップ16がスプレーヘッド6から外された後に、手の1本の指、一般的には親指、がハウジングを下側から支持し、例えば、人差し指もしくは中指が上方からスプレーボタン10の凹所中に位置するようにして、片手で保持される。このように片手の2本の指間で保持された容器2は、中に出口口開12が位置するチューブ端14が開いた口の方向に位置するように向けられ、この後に、スプレーボタン10から押下される。この結果、本質的に収束されたストリーム20が、図2に示すように、人の口中に噴射される。

【0025】

本考案に係わる容器2は、実用的で気持ち良く使用できる幾つかの効果がある。

【0026】

かくして、図2からの直接の結果として、ストリーム20が口中に直接噴射されるので、本考案に係わる容器2が使用される場合には、コップ、飲料カップ等が必要でなくなる。いわゆる片手使用でストリーム20を発生させることができるので、スポーツ、即ち、レジャー活動の間に、この活動を中断することがなく、使用者は容器を使用可能である。例えば、サイクリングを中断しないで口中にストリーム20を噴射することができる。推進剤や推進ガス、並びに出口口開12を囲むチューブ端14により、発生されるストリーム20は、一般的なエアゾールスプレーと比較して、狭く収束され、高速で出力口開12、かくして、チューブ端14から出る。この結果、正確に“目的”を本考案に係わる容器2で果たすことができ、例えば、振動や頭への風等の外的影響は、この目的の精度にはほとんど影響を与えない。また、この容器は、これが、図2に示すように片手の2本の指間で支持されるので、少し大きめのライターと同じように、問題無しに、

密着したスポーツおよびレジヤー着に装備できる。そして、この容器は、耐振性並びに耐破損性なので、破片等による傷害の危険を恐れる必要がない。また、液体中に溶解して残っている推進ガスとして、炭酸を使用することにより、液体が容器 2 のハウジング 4 中で加圧されている限りは、そして、ストリーム 20 が出口口開 12 から出て圧力が大気圧へと急激に減少したときに、この溶解した炭酸が、気泡もしくはガス粒の形態で逃げる限りは、舌並びに／もしくは下顎に噴射される液体は、炭酸の気泡で内部で広がり、リフレッシュ効果と同様に好ましい感覚と体験とが改良される。

【0027】

ノンアルコール飲料と同様にアルコールの入った飲料は液体として適している。アルコールの入った飲料の例はワインの入った飲料、蒸留液、もしくはリキュール類である。ノンアルコールの飲料としては、例えば、アイソトニックをベースとした、ソフトドリンク、いわゆるエネルギードリンク、もしくはいわゆるスポーツドリンクが使用され得る。